

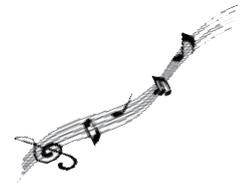
第 16 回

昔を！今を！今歌う会

国民愛唱歌集

～ 激動の時代から平和の時代へ ～

おはなし・歌唱指導 酒井沃子 安田直弘
ピアノ 半澤尚美



2013年6月12日(水) 開演 14:00
アートフォーラムあざみ野 1階レクチャールーム

■ 主催 今歌う会実行委員会

プログラム

第1部 国民愛唱歌

椰子の實 <昭和11年>	作詞：島崎藤村	作曲：大中寅二
夜のプラットホーム <昭和14年>	作詞：奥野椰子夫	作曲：服部良一
隣組 <昭和15年>	作詞：岡本一平	作曲：飯田信夫
めんこい仔馬 <昭和16年>	作詞：サトウハチロー	作曲：仁木他喜雄
朝はどこから <昭和21年>	作詞：森まさる	作曲：橋本國彦
みかんの花咲く丘 <昭和21年>	作詞：加藤省吾	作曲：海沼実
帰り船 <昭和21年>	作詞：清水みのる	作曲：倉若晴生
とんがり帽子（鐘の鳴る丘） <昭和22年>	作詞：菊田一夫	作曲：古関裕而
山小舎の灯 <昭和22年>	作詞・作曲：米山正夫	
里の秋 <昭和23年>	作詞：斎藤信夫	作曲：海沼 実
イヨマンテの夜 <昭和24年>	作詞：菊田一夫	作曲：古関裕而
トンコ節 <昭和24年>	作詞：西条八十	作曲：古賀政男
白い花の咲く頃 <昭和25年>	作詞：寺尾智沙	作曲：田村しげる
星影の小径 <昭和25年>	作詞：矢野亮	作曲：利根一郎
ここに幸あり <昭和31年>	作詞：高橋掬太郎	作曲：飯田三郎
埴生の宿 <昭和31年>	日本語詞：里見義	作曲：ビショップ

第2部 ‘お酒’ コーナー

ワインレッドの心	作詞：井上陽水	作曲：玉置浩二
酒よ	作詞・作曲：吉幾三	
悲しい酒	作詞：石本美由起	作曲：古賀政男
黒田節	福岡県福岡市の民謡	
酒は涙か溜息か	作詞：高橋掬太郎	作曲：古賀政男
二人でお酒を	作詞：山上路夫	作曲：平尾昌晃

第3部 リクエストコーナー

花は咲く	作詞：岩井俊二	作曲：菅野よう子
逢えてよかったね	作詞・作曲：小原孝	
あざみの歌	作詞：横井弘	作曲：八洲秀章
愛国の花	作詞：福田正夫	作曲：古関裕而
母の歌	作詞：板谷節子	作曲：橋本國彦
さくら貝の歌	作詞：土屋花情	作曲：八洲秀章
青い山脈	作詞：西條八十	作曲：服部良一

♪プログラムの進行上、曲順、曲目等が変更になることがあります。
あらかじめご了承ください。

ご案内

「国民歌謡」の時代について

国民歌謡は、戦前の1936年(昭和11年)から1941年(昭和16年)の期間、新しく作った曲を、ラジオで月曜から土曜の午後0時35分から5分間それを1週間連続してラジオから流したラジオ番組である。1941年(昭和16年)2月12日から同年12月8日の期間は名前が「われらのうた」と変わり、さらにその後の、1945年(昭和20年)8月15日までは、「国民合唱」となり、戦後は「ラジオ歌謡」となった。 一出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

今回のコンサートでは基本的上記番組(NHK)で放送された、昭和11年～昭和31年までの曲と、同時代に歌われていたものを選曲しました。

「健全な歌で、国民の音楽文化の啓発を」の目的で始められた国民歌謡が、初年度に発表したものの一つが「椰子の実」。それ以降も名曲を紹介していききましたが、「1940年頃を境に戦意高揚、愛国精神鼓舞の道具とされていった」。

一出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

要するに番組の中心は「軍歌」になっていきました。

山田耕筰、古関裕而、古賀政男、信時潔、橋本國彦などの作曲家が中心となって膨大な数の軍歌が作られていきます。

戦後、特に大量の軍歌を書いた(100曲以上)山田耕筰は厳しく非難を浴びる場面がありました。また、歌手の伊藤久男は軍歌を得意(?)にしており、数多くの曲を歌っていました。が、自分の歌で戦場に赴いた兵隊の心情を感じ、戦後は故郷に帰り酒浸りとなり、再起不能と言われた時期もあったそうです。

戦争は音楽家たちにも深い傷を与えたことになりますね。もちろん、小説家、画家たちもですが。

「健全な歌で、国民の音楽文化の啓発を」という「国民歌謡」初心に帰って、昭和21年にスタートしたのが「ラジオ歌謡」です。「朝はどこから」、「風はそよかぜ」などのさわやかな曲が多かったものの、世の中はまだ戦後の混乱期。戦地であった南方や大陸各地から軍人、民間人等が、引き揚げてくる。まだそんな時期でした。

そんな時期に歌われた「里の秋」はまさに出征中の父親の無事帰還を祈る家族を描写しています。

(2番) 明るい明るい星の空
鳴き鳴き夜鶯(よがも)の渡る夜は
ああ父さんのあの笑顔
栗の実食べては思い出す

(3番) さよならさよなら椰子(やし)の島
お舟にゆられて帰られる
ああ父さんよ 御無事で
今夜も母さんと祈ります

戦後の混乱が徐々に収まってきた、昭和24・5年ころが「ラジオ歌謡」の全盛期でしょうか。「あざみの歌」、「さくら貝の歌」、「白い花の咲く頃」などが大ヒットし、現在も歌い継がれています。

NHKテレビの本放送が開始されたのが昭和28年。TVの普及に伴い「ラジオ歌謡」の役割もほぼ終わり、昭和37年に845曲目の「しおしゃけの歌」をもって放送終了となりました。

(「国民歌謡」は206曲)

「ラジオ歌謡」から派生した民放の「クレハ・ホームミュージック」(大阪朝日放送)からは「川は流れる」、「ふるさとのなしをしよう」、「こいさんのラブコール」、「公園の手品師」などのヒット曲を発表しました。これも「ラジオ歌謡」の功績といえるかもしれません。

・参照 「日本ラジオ歌謡研究会」 <http://www.rajiokayou.net/list.html>

プロフィール

酒井 沃子 Yoko Sakai

東京藝術大学音楽部声楽科卒業。数々のコンサートの企画運営に情熱を注ぎ、既成概念を破る印象的なステージ創りを次々と実現させている。コーラス4団体の主宰をし、個性を持った何処にも無いグループとして育てている。平成15年設立された、NPO法人「65歳からのアートライフ推進会議」では、理事長として、青葉区から発信する音楽イベントを実現させ、多方面から注目を浴びている。「昔を今を 今歌う会」では、主宰・指導者として、地域の音楽に貢献している。

安田 直弘 Naohiro Yasuda

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業後、シャンソン、ポップス、ソウルバンド等、長年演奏活動を続ける。NHK レッツゴーヤングの歌唱指導等で高い評価を得る。現在、歌手・俳優へのヴォイストレーニングでも活躍中。東海大学、文化学院大学非常勤講師。

半澤 尚美 Naomi Hanzawa ピアノ

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。ピアノを井口基成、森安芳樹、室内楽を岩崎 淑の各氏に師事。虎ノ門ホールにてデビューコンサート、県立音楽堂にて横浜弦楽四重奏団と競演。イタリア、シェナ夏期講習に参加。現在、昭和音楽大学および同大学付属音楽教室ピアノ講師として後進の指導にあたる。

スタッフ

- ・山本 桂子（事務局長）・丹羽 綾子（ステージコーディネータ）・坂野 義雄（事務・会場）
- ・藤本 裕（構成・プログラムデザイン） ・その他ボランティアの皆さん

★次回予告★

第17回「昔を！今を！今歌う会」

2013年9月12日(木) 開演 14:00 (開場 13:30)

アートフォーラムあざみ野 1F レクチャールーム

お好きな歌・思い出の歌・今すぐにリクエストを！！

オペラ、歌曲、シャンソン、カンツォーネ、ジャズ、ポップス、
童謡、唱歌、フォークソング、民謡、演歌、他

- ・お問い合わせ／リクエスト先： オフィスバルーン Tel&Fax. 045-901-9914
E-Mail office_balloon@a00.itscom.net